

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	I Le 埼玉 ミミ			
○保護者評価実施期間	2026年 3月 6日		～	2026年 3月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 6日		～	2026年 3月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3 月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人の他事業所(ネオ・ラフ・バリ・ジュニア)との合同交流を定期的に開催している。	普段とは異なる場所や初対面の友達・職員と話す機会を設けることで、公共のマナー遵守や、多様な人間関係におけるコミュニケーション能力の向上を多角的に支援している。 ・自己紹介や活動をとおしての表出支援。 ・環境の変化における適応訓練 ・交流だからこそできる多様な活動体験の企画	法人内交流を通じて、職員間での支援事例共有や、他事業所の環境構成・プログラムを相互に評価し合う機会を確保。客観的な視点を取り入れることで、支援の質の平準化と向上を図っている。
2	各関係機関とのつながり ・相談支援員と密に連携し、家庭・学校・放デイが三位一体となった支援を行っている。 ・クリニックとの連携	・子どものライフステージに応じた切れ目ないサポートを実現している ・同法人のクリニックと連携する事で、STや心理士等の専門的な知見に基づいたアドバイスを支援員間で共有し、根拠に基づいた療育を提供できる体制を整えている。	学校の公開授業への参加や担任との直接対話増やし、個別支援計画と個別の教育支援計画の連動性をより高めていく。
3	地域資源を活用した社会参加支援	単なるレクリエーションの留めず、5領域を網羅した支援を意識している。動物園・水族館では生命の尊さや情緒の安定(健康・生活)を育むまた、公共の場での集団ルールの遵守(人間関係・社会性)を実践的に学ぶ。科学館では展示物への操作体験を通じ、物事への仕組みの興味や思考力・推理力(認知・行動)を刺激している。公園では大型遊具や広部での活動を通じ、全身を使った粗大運動(運動・感覚)を促進。開放的な環境で余暇の楽しみを広げ、ストレス発散や心身の健康維持を強みとしている。	・選ぶ 場面の拡大(自己決定の促進) スタッフが決めた場所へ行くだけでなく、複数の候補から子ども達が行きたい場所を決める機会を増やす事で主体性と集団への帰属意識を高める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化とスペースの制約	建物の築年数と構造上の問題	建物の構造上、静養スペースの確保が難しい。カーテン(仕切り)の活用やスケジュール・活動調整をおこない、より子供が落ち着ける環境設定を工夫して行く。
2	・職員の配置数	現在、他店の協力を得ながら配置の基準は満たしてはいるものの急な欠員や突発的な対応が必要な際に、配置に余裕がない場面が見られる。その為、個別のニーズに即応しきれないリスクを課題としている。	採用活動を強化するとともに、既存職員の負担を軽減するため業務フローの見直しを行う。また、内部研修を充実させ、少人数でも多角的な視点で質の高い支援が提供できる「個々の専門性向上」に注力し支援の質を担保する。ヒヤリハットの共有を強化し、人数が少ない時間帯でも事故が起きない環境構成(導線確保等)を徹底する。
3	・保護者へのフィードバックの不足	保護者への日々の報告が立ち話やルーティン化し、支援の狙いや成果を深く共有する機会が不足していた。	・ICTツール(ハグ活動記録)の活用を活性化する。また、支援の意図(なぜこの活動をしているのか)や実施した活動が5領域のどこに紐づいているのかを明記する事で、療育の目的を専門的な視点で解説する機会を設ける。